

(様式2)

2021年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【静岡県】

学校名【沼津特別支援学校伊豆田方分校】

1 実践テーマ	I・II・ <b>III</b> ・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	高等部1～3年 46人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（生活単元学習、総合的な探求の時間、保健体育、情報） ② 行事名（ ） ③ その他（高等学校との交流） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	パラサイクリングやボッチャについて理解を深める中で、パラスポーツへの興味関心を高め、共生社会に向けた理解啓発活動に主体的に取り組むことができる。
5 取組内容	【パラリンピックを通じた取組】 ・東京2020パラリンピックの学習（調べ学習含む） →掲示物作成 ・パラリンピックスポーツ体験→感想発表 ・作業学習における4作業班のピクトグラムを作成、活用  【ボッチャを通じた取組】 ・ボッチャの歴史やルール等の調べ学習→掲示物作成 ・東京パラリンピック2020ボッチャ競技の視聴 ・ボッチャ講習会 ※静岡県障害者スポーツ協会の事業を活用した講師招請を計画したが、コロナ禍のため実施できず、教員が実施。） ・校内ボッチャ大会の実施（体育委員主催）→感想発表、記入 ・学年レクリエーション（生徒主催）においてもボッチャを実施 ・高等学校との交流活動の内容として、ボッチャを実施。→感想発表、記入。 ※幼保小中との交流は、コロナ禍のため実施できず。 ※地域のイベントで生徒参加によるボッチャ体験コーナーの実施を計画したが、コロナ禍のため実施できなかった。



### 【パラサイクリングを通じた取組】

- パラサイクリングの歴史やクラス分け等の調べ学習→掲示物作成
- 東京2020パラリンピック自転車競技の視聴
- 選手招請事業「パラリンピアンから学ぼう」の実施  
日本パラサイクリング連盟所属 パラリンピアン2人(川本翔大選手、藤井美穂選手 ※両選手、自校学区内に在住)による講演会・体験会
  - ①パラサイクリングについて説明
  - ②選手講話
    - ・生い立ち
    - ・競技への思いや練習について 等
  - ③生徒質疑応答
    - ・体づくりについて
    - ・義足について 等
  - ④選手によるデモンストレーション(ロード用、トラック用)
  - ⑤生徒全員による体験(トライシクル)
    - ※川本選手が試乗補助、藤井選手が待機生徒の元で競技説明や質疑応答への対応
- 「パラリンピアンから学ぼう」における講話や試乗体験の振り返り、感想や選手へのメッセージの記入



	<p>【パラリンピックコーナーの設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習等を掲示</li> <li>・各学年のパラスポーツ体験活動の様子を掲示</li> <li>・東京2020パラリンピックにおけるボッチャ競技、自転車競技の結果等を掲示。</li> </ul>
<p>6 主な成果</p>	<p>【パラリンピックを通した取組】【パラリンピックコーナーを通した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京2020パラリンピックの学習を通じて、パラスポーツへの興味関心が非常に高まった。ゴールボールやシッティングバレー、パラバドミントンを体験することで、相手の立場に思いを馳せることやパラスポーツの魅力を感じることができた。</li> <li>・動画等の有効活用したことで、パラスポーツのイメージが高まり、生徒からパラリンピックのことを話題にしたり、パラリンピックコーナーに注目している生徒の姿が多く見られたりした。</li> </ul> <p>【ボッチャを通した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度から継続的に行っているボッチャ競技に、重点的に取り組んだ。パラリンピックでの地元選手の活躍もあり、生徒の意欲の高まりや技術の向上が見られた。</li> <li>・ボッチャ大会においては、体育委員会を中心に生徒が計画、運営することでより主体的な活動になった。生徒同士、投げ方や狙う位置等を自分自身で良く考え実践にうつしたり、チーム内の仲間と相談したりする戦術的な取組へと高まった。ルールについても理解が深まり、審判も自分たちで行うことができるようになった。クラスレクリエーションとしてボッチャを取り上げ、生徒が自発的に実施することもあった。</li> <li>・併設する高等学校との交流での取組においては、実態に幅のある知的障害の生徒同士や高校生と競技を実施する中でも力量差を感じることなく、皆で一緒に盛り上がり楽しんで共に、分校生の技術の向上を披露することができ、共生・共育の取組としても効果的であった。</li> </ul> <p>【パラサイクリングを通した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選手招請事業について、早くから生徒達に知らせ、来校予定選手の東京2020パラリンピックの結果や活躍、動画による選手紹介等に取り組むことで、生徒自身が選手の名前を覚えたり、注目してニュース等で結果を得たりする姿が見られた。選手招請事業に向け、興味関心が高まり期待感が増していた。</li> <li>・選手招請事業による講話や体験会は、生徒達の心を揺さぶる貴重な機会となった。選手が目標に向かって大変努力していることや、義足での生活などを聞くことで、生徒が自身の今や将来について考える機会となった。</li> <li>・パラサイクリングについて説明を丁寧に受けることで、パラサイクリングについて興味をもち、自主的に調べ詳しくなった生徒もいた。</li> <li>・デモンストレーションでは、片足で華麗に乗りこなす選手の姿に感嘆の声があがった。</li> <li>・トライシクルに全員乗ってみることで、思っていた以上に乗りこなす難しさを体感したり、パラサイクリングに興味をもち観</li> </ul>

	<p>戦しに行きたいと考えたりすることができた。生涯に渡ってスポーツに親しみ応援する気持ちを育てるきっかけにもなった。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 生徒が実体験の中で感じ、考えられるようにパラスポーツの体験活動を重視して取り組んだ。</li> <li>• 様々な教科等において、横断的にパラスポーツを扱う機会を設けた。</li> <li>• 継続的かつ発展的な学習や卒業後の取り組みも期待できる学区地域が活性化を目指しているパラサイクリングを取り上げた。</li> <li>• 交流の機会にボッチャ競技を行うことで、パラスポーツの理解啓発活動にもつなげた。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自校には、ボッチャセットが2セットしかないため、障害者スポーツ協会よりボッチャセットを1か月半程度借用した。ボッチャ大会や交流を実施するとなると、数の確保が必要となる。</li> <li>• トライシクルを生徒全員は非常に良い体験となったが、待ち時間が長くなってしまった。2人の選手が来校してくださったことで、1人の選手が試乗の補助に、もう1人の選手が待っている生徒達の質問に答えてくださったので、待ち時間も充実した時間をなった。2人の選手に来校いただけるとより充実した学習になると考える。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 本事業の活用は考えていないが、来年度以降も学習を継続し積み重ねたいと考えている。選手による講演やデモンストレーション、体験の充実を図るため、「あすチャレ school」事業を活用する予定である。</li> <li>• 今年度はコロナ禍による地域への理解啓発活動が計画通り実施できなかったため、ボッチャ体験を通じた理解啓発活動や、地域と連携したパラサイクリングの広報活動等の実施を行っていききたい。</li> </ul>